

## 論文のタイトルを16ptで

English Title in 12 Point Letters

防災太郎<sup>1</sup>・歴防二郎<sup>2</sup>・文化花子<sup>3</sup>

Taro Bosai, Jiro Rekibou and Hanako Bunka

<sup>1</sup>〇〇大学教授 理工学部環境都市工学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1)

Professor, Dept. of Civil and Environmental Engineering, 〇〇 University

<sup>2</sup>立命館大学大学院 理工学研究科環境都市専攻 博士課程前期課程 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1)

Graduate Student, Graduate School of Science and Engineering, Ritsumeikan University

<sup>3</sup>△△株式会社 技術開発部 (〒603-8341 京都市北区小松原北町58)

Chief Engineer, △△ Corporation

The journal will be produced by direct photo-offset printing. You must prepare your manuscript carefully according to this instruction. Please use only A4 size paper. The manuscript must be typed on the good quality white paper within the type area. For A4 paper, top and bottom margins are 20mm and 25mm respectively. Both left and right margins are 20mm. The use of high quality printer is recommended. For main text, please use 10 point MS Mincho and Times Roman fonts, if is available. The line spacing must be single. Abstract should not exceed 6 lines (approximately 120 words) and should be followed by 3 or 4 keywords.

**Keywords:** *times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if keywords exceed one line*

### 1. ページレイアウト

A4用紙を用い、左右と上の余白を20mm、下の余白を25mmとしてください。和文はMS明朝、英数字はTimes Romanとし、10ptフォントで48文字×48行を基本とします。ページ数は4～8の偶数ページとします。必ず偶数ページになるようご注意ください。

#### (1) タイトル部分のレイアウトとフォント

1ページ目のみ、左上に「歴史都市防災論文集 Vol. 15 (2021年7月)」、右上に【論文】もしくは【報告】と書いてください。このファイルに上書きする場合、右上の【論文】【報告】のどちらかを消してください。タイトルは論文集の名称の下に2行空け、センタリングします。以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いてください。

タイトル：ゴシック体 16 pt フォント

(1行のスペース)

英文タイトル：Times Roman 12pt フォントの大文字

(1行のスペース)

著者名：明朝体 12 pt フォント

著者の英文表示：Times Roman 12pt フォント

(1行のスペース)

著者所属：明朝体 9 pt フォントおよび英文表記Times Roman 9pt フォント

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べてください。ここまではセンタリングです。

(1行のスペース)

英文概要：Times Roman 10pt フォント、6行以内。120ワード程度。左寄せ両端揃え。

(1行のスペース)

英文キーワード：Times Romanイタリック 10pt フォント、3～4ワード。左寄せ両端揃え。Keywordsという文字だけボールド（太字）で。

(2行のスペース)

キーワードの下に2行空けてから、本文を開始してください。

## (2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文も1段組です。本文には明朝体 10 pt フォント（英数字はTimes Roman）を用いてください。句読点は「、」と「。」を使用してください。

## (3) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページを入れます。ページ番号は暫定的に論文表紙を第1ページとして付けてください。

## 2. 見出し

### (1) 見出しのレベル

第1レベルの見出し（章）は11ptのゴシック体とし、2. などの全角数字とピリオドに続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。上を1行以上、下を1行空けてください。

### (2) 第2レベルの見出し

第2レベルの見出し（節）は10ptのゴシック体で、(4) などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けてください。

#### a) 第3レベルの見出し

第3レベルの見出し（項）は10ptのゴシック体で、片括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。第3レベルより下位の見出しはなるべく用いないでください。

## 3. 図表

### (1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。図表と文章本体との間には1～2行程度の空白を空けて区別を明確にしてください。

表1 表のキャプションは表の上に置く

要素	高さ $h$ (m)	幅 $w$ (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

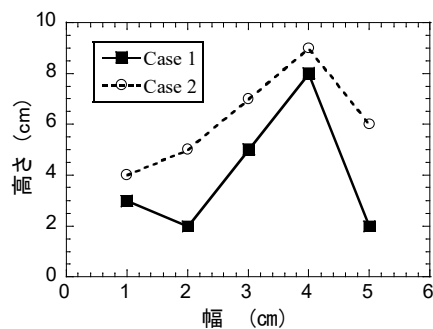


図1 図のキャプションは図の下に置く

## (2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ(9pt)より小さくならないようにしてください。

## (3) カラー

図はカラーを使っていただいて結構です。ただし、印刷の都合上、色が多少変わる場合がありますのでご注意ください。

## 4. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式(1)のように本文と独立している場合でも、 $\alpha(x)$ のように文章の中に出てくる場合でも、同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

$$y = \int_0^t \sin x dx \quad (1)$$

## 5. 英文で書く場合

論文を英文で書く場合には、和文タイトル、著者名および所属の和文表記は省略していただいて結構です。使用フォントは、ゴシックと書かれている部分をArialに、明朝と書かれている部分をTimes Romanにしてください。詳しくは、英文用テンプレートをご覧ください。

## 6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように<sup>1)</sup>上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はそのすべてを原稿の末尾にまとめてリスト(文字の大きさは9pt)として示し、脚注にはしないでください。

## 7. PDFファイルの作成

PDFファイルで投稿するにあたり、文字化けや図の劣化を防ぐために、下記の手順でPDFファイルを作成してください。

- ①印刷から【PDFプリンター】を選択。
- ②【プロパティ】を選択。
- ③【Adobe PDF設定】タブページの【PDF設定】から【高品質印刷】を選択。
- ④【用紙/品質】タブページの【詳細設定】を選択。
- ⑤【グラフィックス】中の【True Typeフォント】を【ソフトフォントとしてダウンロード】に変更。
- ⑥【PostScriptオプション】中の【PostScript出力オプション】を【エラーが軽減するよう最適化】に変更。
- ⑦【PostScriptオプション】中の【TrueTypeフォントダウンロードオプション】を【アウトライン】に変更。
- ⑧【OK】ボタンを押して、PDF変換する。

**謝辞:**「謝辞」は「結論」の後に置いてください。見出しとコロンをゴシック体の太字で書き、その直後から文章を書き出してください。

**参考文献** 見出しを太字で書いてください。

- 1) 日本道路協会: 道路橋示方書・同解説, V耐震設計編, 2002. 西暦の後、ピリオドを。
- 2) Timoshenko, S. P., Young, D. H. and Weaver, Jr., W. (谷口修, 田村章義共訳): 工業振動学, コロナ社, 1977.
- 3) 小坪清眞: 入門建設振動学, 森北出版, pp. 156-157, 1996.

- 4) 伊津野和行・袴田文雄・中村一平：機能分離型支承装置の動特性と設計手法に関する研究，土木学会論文集，No. 654/I-52, pp.233-244, 2000.
- 5) Mokha, A., Constantinou, M. and Reinhorn, A.: Teflon bearings in base isolation. I: Testing, Journal of Structural Engineering, ASCE, Vol.116, No.2, pp.438-454, 1990.